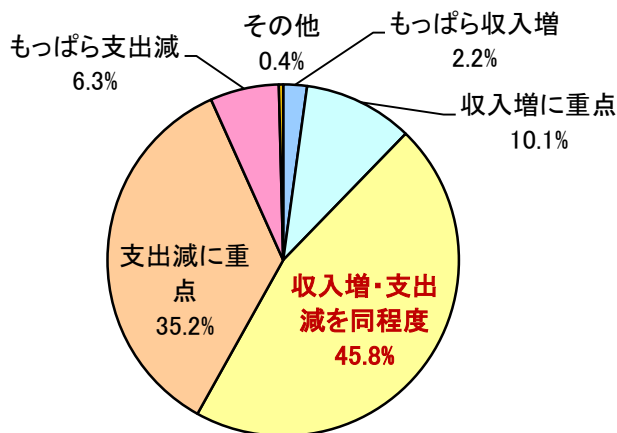


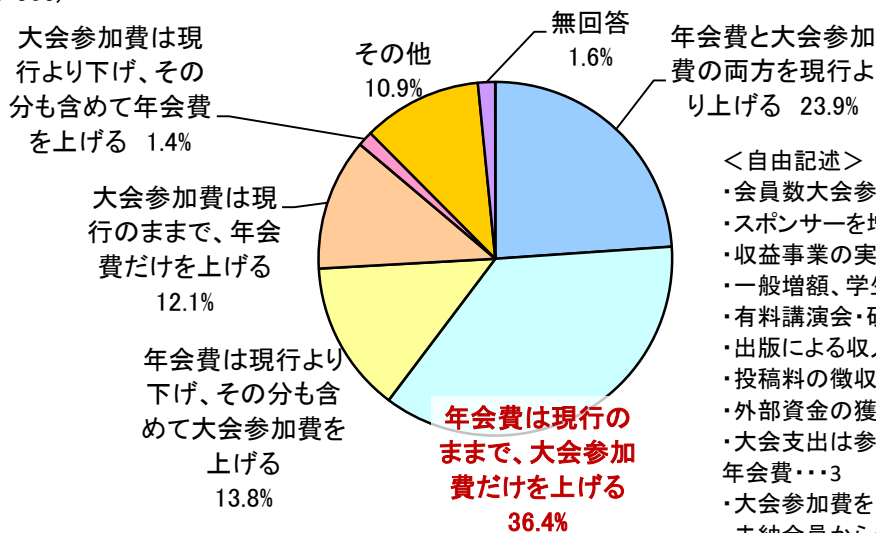
第1回会員アンケート結果

[Q1]財政の改革には、大きく分けて学会収入の増加と学会支出の削減という2つの選択肢があります。また、これら2つをほどよく組み合わせることも選択肢となります。どちらにどの程度のウエイトを置くのがよいとお考えでしょうか。
(n=506)



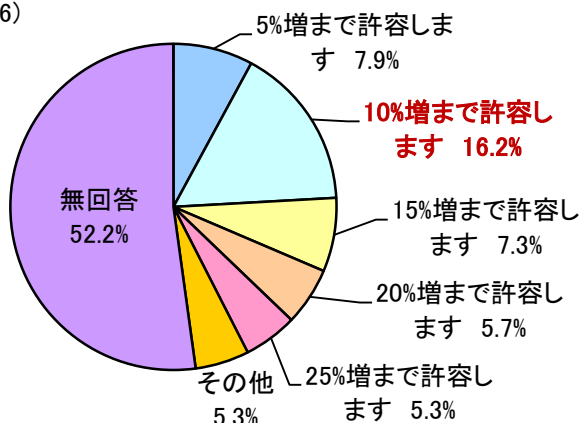
<自由記述>
 ・情報不足・・・1
 ・景気動向に依存した柔軟な判断(今なら支出減)・・・1

[Q2]学会収入の増やし方としては、次のいずれが適切だとお考えですか
(n=506)



<自由記述>
 ・会員数大会参加数を上げる・・・8
 ・スポンサーを増やす・・・8
 ・収益事業の実施・・・5
 ・一般増額、学生据置き・・・5
 ・有料講演会・研修の実施・・・4
 ・出版による収入増・・・3
 ・投稿料の徴収・・・3
 ・外部資金の獲得・・・3
 ・大会支出は参加費、学会運営は年会費・・・3
 ・大会参加費を日割り徴収・・・1
 ・未納会員からの徴収強化・・・1

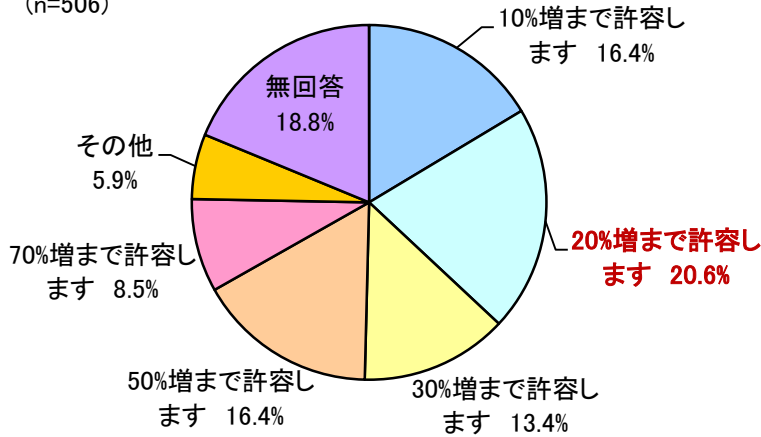
[Q3]「年会費を上げる」に賛同される方にお聞きします。年会費の増額は現行の何%までが許容範囲とお考えですか。以下の選択肢からお答えください。なお、現在の年会費(地区会費を除く)は、およそ一般13,000円、学生10,000円ですが、1,200万円の財政赤字をすべて年会費で補てんするためには、現行の25%ほど値上げする必要があります。
(n=506)



<自由記述>
 ・一般は増額、学生は据置き・・・8
 ・一般は増額、学生は減額・・・2
 ・退職者割引・・・1
 ・15000円まで・・・1
 ・学会運営費の赤字分のみ値上げ・・・1

[Q4]「大会参加費を上げる」に賛同される方にお聞きします。大会参加費の増額は現行の何%までが許容範囲とお考えですか。以下の選択肢からお答えください。なお、大会参加費は開催地によって異なり、仙台大会の場合、早期割引で一般10,000円、学生6,000円でした。仮にこの金額で試算すると、1,200万円の財政赤字をすべて大会参加費で補てんするためには、現行の70%ほど値上げする必要があります。

(n=506)

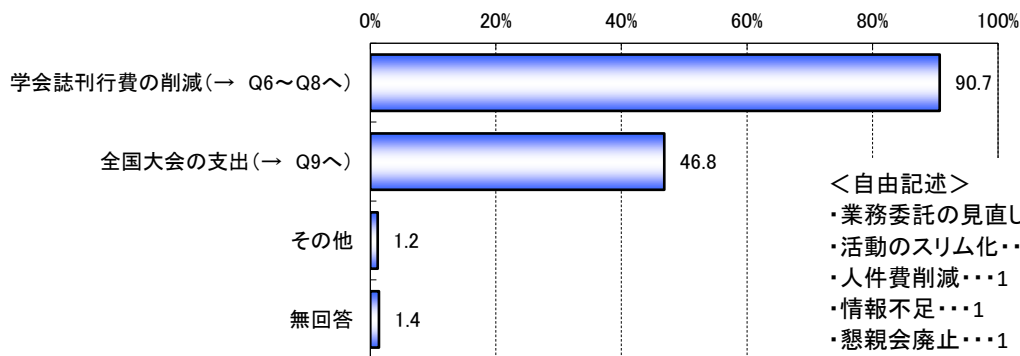


<自由記述>

- ・一般のみ増額、学生は据え置き・・・10
- ・100%以上許容・・・3
- ・情報不足・・・1
- ・懇親会廃止・・・1
- ・大会支出の赤字分のみ値上げ・・・1
- ・大会支出は大会参加費でまかなう・・・1
- ・大会をコンパクトに・・・1
- ・競争的資金による参加者からは多く徴収・・・1

[Q5]学会支出の減らし方としては、次のいずれが適切だとお考えですか。

(n=506)

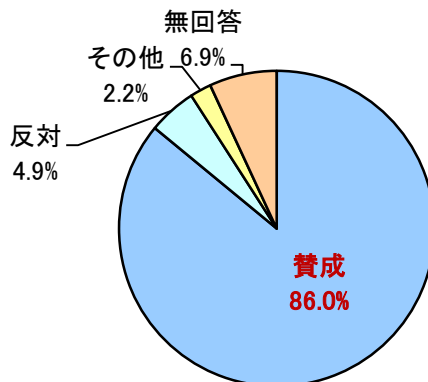


<自由記述>

- ・業務委託の見直し・・・2
- ・活動のスリム化・・・1
- ・人件費削減・・・1
- ・情報不足・・・1
- ・懇親会廃止・・・1

[Q6]Q5で「学会誌刊行費」を選んだ方にお聞きします。Ecological Research誌を完全電子ジャーナル化(冊子体の廃止)することで、年度支出を300万円削減することが可能です。完全電子ジャーナル化に賛成しますか。

(n=506)

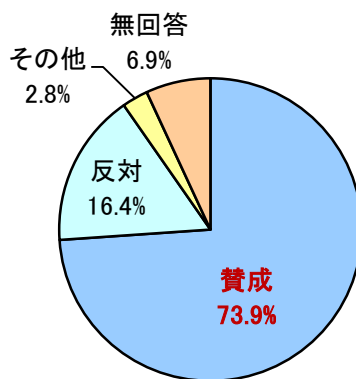


<自由記述>

- ・部分的移行に止める・・・4
- ・希望制・・・3
- ・発送回数の削減・・・1

[Q7]Q5で「学会誌刊行費」を選んだ方にお聞きします。日本生態学会誌を完全電子ジャーナル化(冊子体の廃止)することで、年度支出を150万円削減することが可能です。完全電子ジャーナル化に賛成しますか。

(n=506)

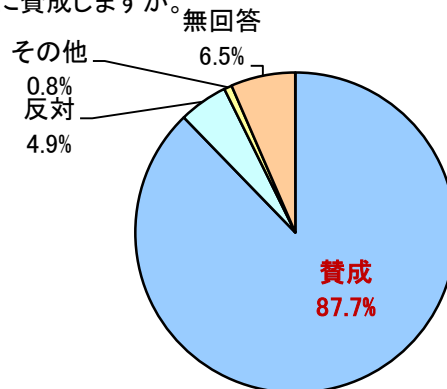


<自由記述>

- ・希望制・・・5
- ・部分的移行に止める・・・3
- ・図書館・大学等には配付・・・2

[Q8]Q5で「学会誌刊行費」を選んだ方にお聞きします。ニュースレターを電子レター化(冊子体の廃止)することで、年度支出を50万円削減することが可能です。電子レター化に賛成しますか。

(n=506)



<自由記述>

- ・郵送ハガキの案内が欲しい・・・1
- ・生態誌に統合・・・1

[Q9] 全国大会の支出で最も高額なのは会場費です。現在、2000人規模の参加者がおりますので、会場も大きな施設が必要となります。全国大会の支出を削減する良い方法がありましたら、自由にご記入ください。

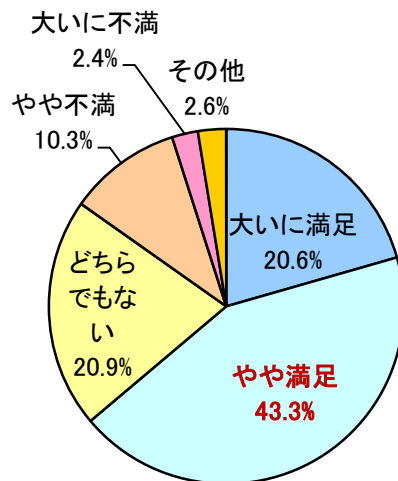
- | | | |
|------------------|-------------------|-----------------|
| ・大学で開催・・・31 | ・自治体の助成・・・12 | ・隔年開催・・・5 |
| ・会期の短縮・・・26 | ・受賞講演の平行開催・・・10 | ・参加費の増額・・・4 |
| ・安価な会場だけで開催・・・16 | ・集会数を制限・・・9 | ・懇親会の廃止・・・3 |
| ・会場を固定・・・15 | ・会場の分散(分野別)・・・8 | ・集会のテーマをしぼる・・・3 |
| ・発表数を制限・・・14 | ・参加者で負担・・・6 | ・電子システムの導入・・・3 |
| ・スポンサーの拡充・・・14 | ・集会の見直し(一部廃止)・・・6 | ・その他・・・20 |

[Q10] ほかに財政の改革について、ご意見やご提案がありましたら、自由にご記入ください。

- | | | |
|---------------|----------------|----------------|
| ・寄付・・・12 | ・地区会制度の廃止・・・3 | ・投稿料の徴収・・・2 |
| ・収益事業・・・9 | ・大会参加費を増額・・・3 | ・ボランティアの拡充・・・2 |
| ・スポンサーの拡充・・・9 | ・OAジャーナル化・・・2 | ・旅費の削減・・・2 |
| ・冊子体の廃止・・・8 | ・一般会員の会費増額・・・2 | ・その他・・・36 |
| ・広告収入・・・3 | ・科研費を申請しない・・・2 | |

[Q11]現在の全国大会に対する満足度をお聞きます。次のうち、当てはまるものを選択してください。

(n=506)

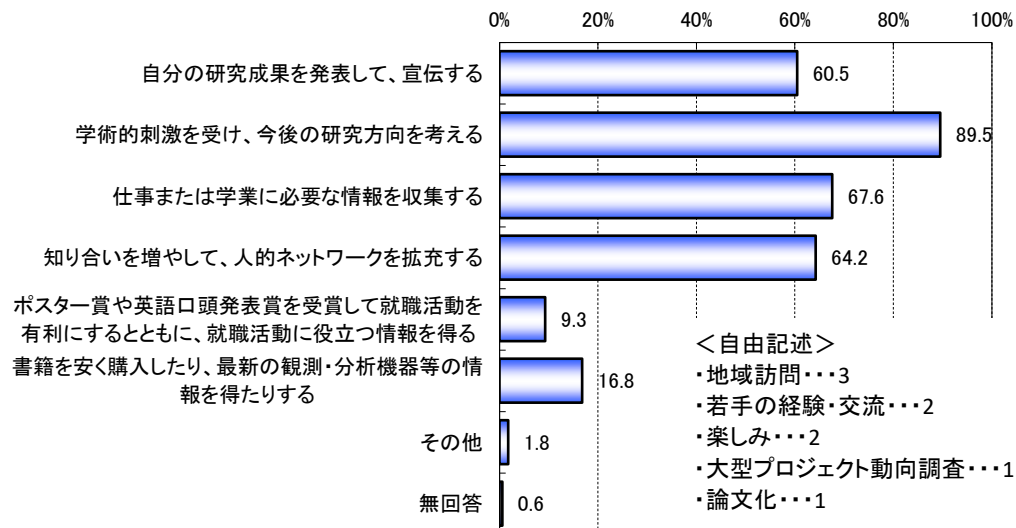


<自由記述>

- ・参加していない・・・8
- ・委員会の負担大・・・1
- ・人数が多すぎる・・・1
- ・セッションの重複・・・1
- ・不満はない(ただし負担大を示唆)・・・1

[Q12]全国大会の魅力についてお聞きます。この魅力を向上させる上で重視することは何ですか。次のうち、当てはまるものがありましたら選択してください。

(n=506)

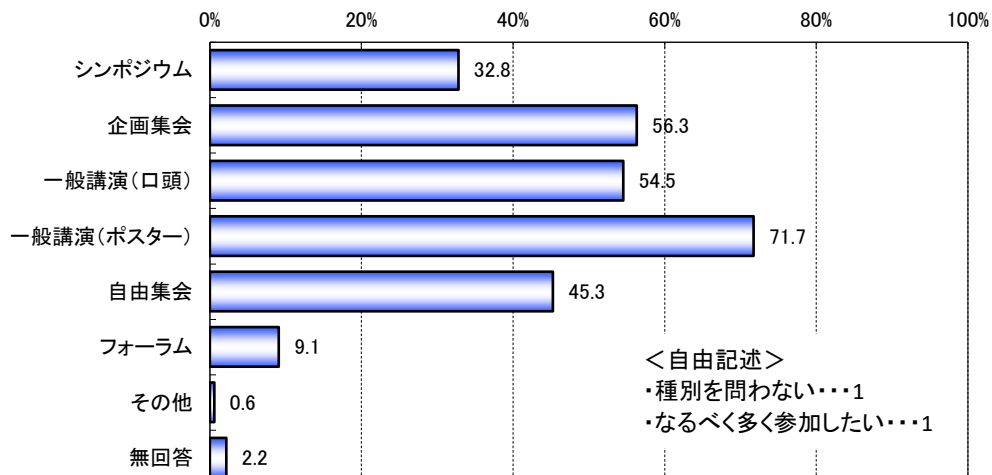


<自由記述>

- ・地域訪問・・・3
- ・若手の経験・交流・・・2
- ・楽しみ・・・2
- ・大型プロジェクト動向調査・・・1
- ・論文化・・・1

[Q13]発表を目的として参加したい集会または講演種別を選択してください。

(n=506)

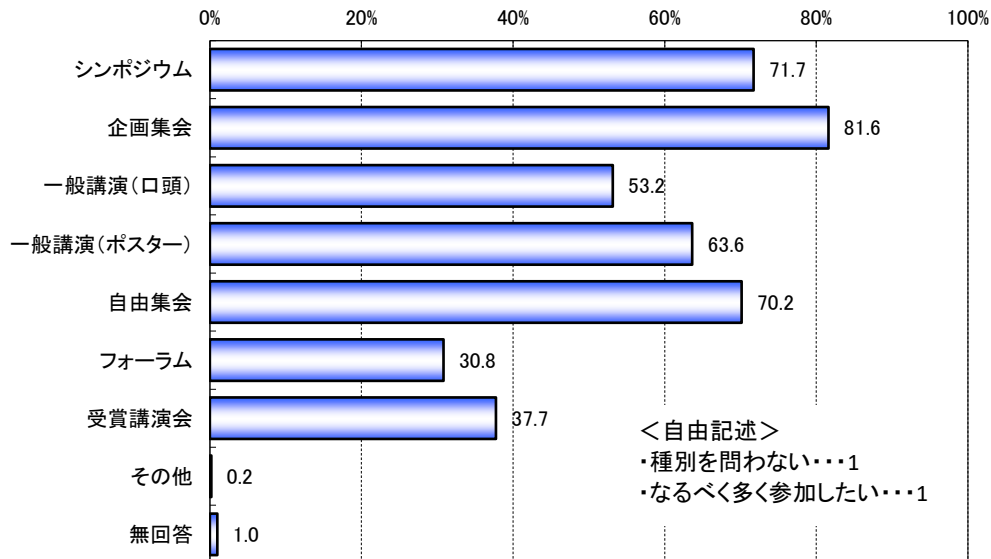


<自由記述>

- ・種別を問わない・・・1
- ・なるべく多く参加したい・・・1

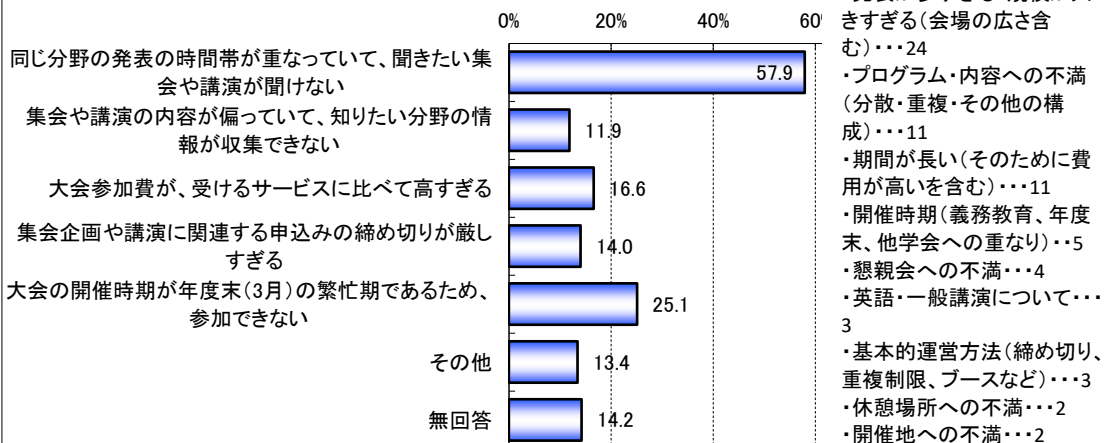
[Q14]聴講を目的として参加したい集会または講演種別を選択してください。

(n=506)



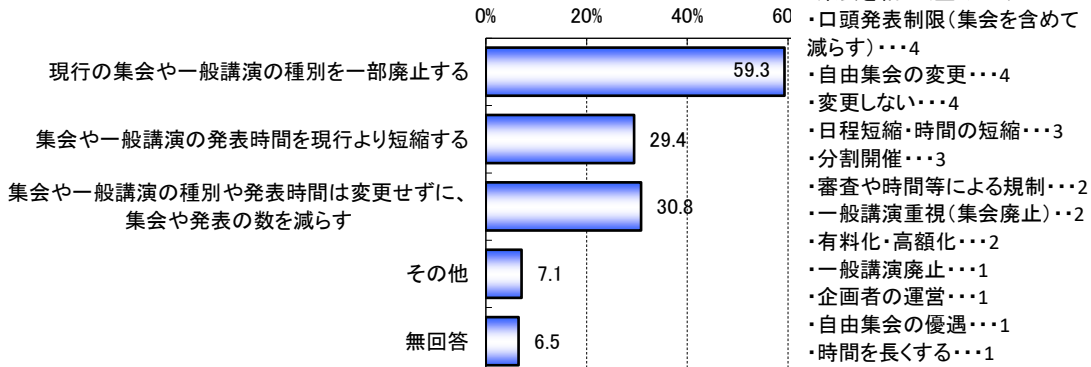
[Q15]全国大会の不満な点についてお聞きします。次のうち、不満な点に当てはまるものがありましたら、お答えください。

(n=506)



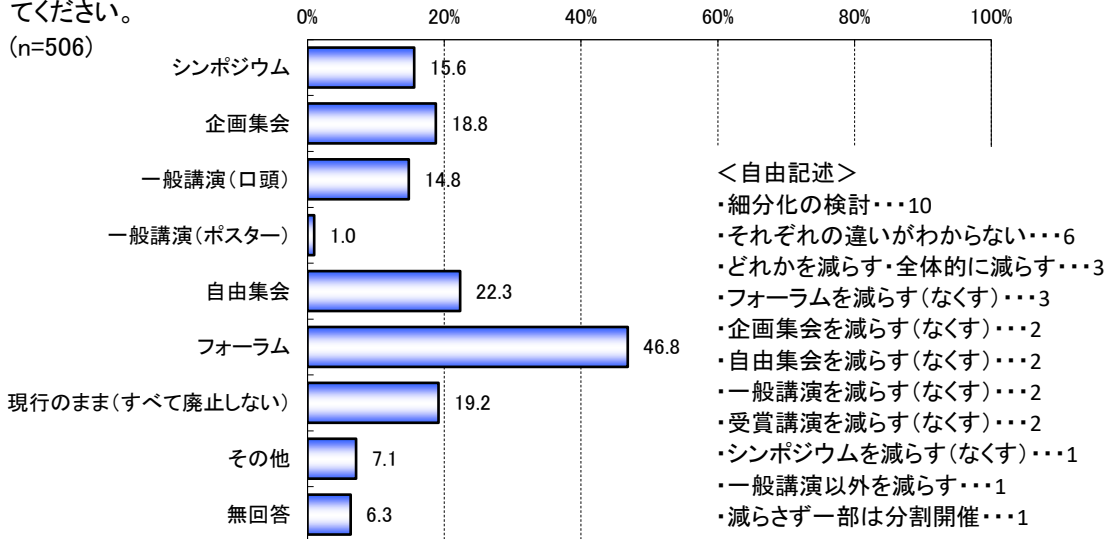
[Q16]全国大会では、口頭とポスターによる一般講演に加えて、シンポジウム(3時間枠)、企画集会(2時間枠)、自由集会(2時間枠)、フォーラム(2-3時間枠)という4種類の集会が開催されています。これらを開催するためには、大きな会場と多くの労力が必要となります。そこで、大会の簡素化のために、実行しても構わないと考える選択肢を選んでください。

(n=506)



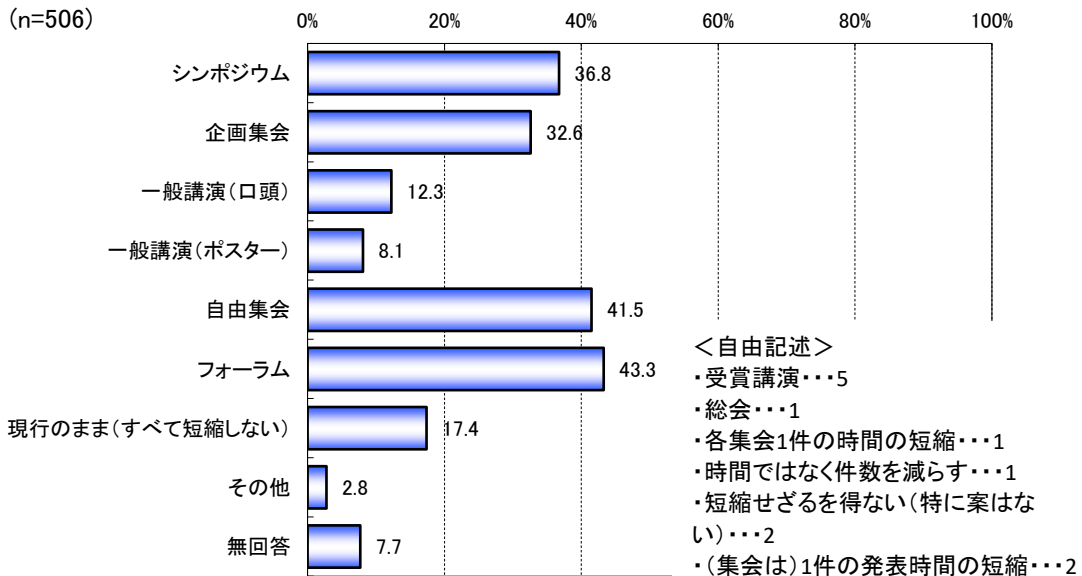
[Q17] 現行の集会や講演種別のうち、廃止しても構わないと考えるものを選択してください。

(n=506)



[Q18] 現行の集会や講演種別のうち、発表時間を短縮させても構わないと考えるものを選択してください。

(n=506)



[Q19] 一般講演の表彰として、ポスター賞と英語口頭発表賞がありますが、厳正な審査を行うために多くの時間と労力を必要とし、表彰担当者に過度の負担となっています。この負担を軽減する良い方法がありましたら、自由にご記入ください。

- ・審査方法を変える(全員の投票・審査の簡略・審査委員の増員・事前登録など)・・・76
- ・両方やめる・・・41
- ・数を減らす(対象者を絞るなど)・・・29
- ・英語口頭発表賞をやめる・・・27
- ・ポスター賞をやめる・・・7
- ・表彰の変更(なくす)・・・7
- ・審査者に報酬・・・4
- ・隔年にする・・・3
- ・手続きの変更・・・1

[Q20]ほかに大会運営の改革について、ご意見やご提案がありましたら、自由にご記入ください。(これまでの問いに含まれない意見)

- ・ BOF や対話型集会など発表者と参加者がインタラクティブにコミュニケーションをとる形式にシフトしてることが望まれる。質疑は懇親会で！という形式はとくに若い人にとって障壁が高い
- ・ 直接関係ないかもしれませんが、エコカップで会場確保などの支出はあるのでしょうか？また、大会委員の仕事が増えることはないですか？もし支出や仕事が増えるようであれば、エコカップを廃止(会員全員がサッカー好きとは限らない)
- ・ 特定のシンポジウム、企画集会等だけを聴講したいという人にとって参加費が高すぎる。大会のうち一日のみ参加できる一日参加費(大会当日に受付で2000-3000円程度支払う)を設定してほしい。
- ・ 全国大会を廃止する、または数年に一度とする。
- ・ 口頭発表ファイル事前登録(締切)はやめてほしい。
- ・ 懇親会で儲けを出して、運営に回せませんか？
- ・ 懇親会は、食べられない、飲めない、話せないのではいけないと思います。
- ・ 自由集会など、生態学会の特徴を前面に出して欲しい。フィールドツアーも企画して欲しい。
- ・ 財政改革とは関係ないし、開催自体にそれほどお金もかからないのかもしれませんが、全国大会におけるフットサルのイベントは、男女共同参画を推進する生態学会にそぐわないのではないかと思います。そのイベントを心から楽しめるのは、スポーツが得意で比較的若い男性だけです。せっかく生態学という共通の興味で老若男女が結びついているというのに、なぜわざわざ垣根を設けるのでしょうか？訳あってスポーツができない人に、なぜわざわざ疎外感を覚えさせるのでしょうか？もしやるなら、生態学に関係のあるイベントにするべきではないでしょうか？
- ・ 大会の運営方法は長く工夫を重ねて現在の形になっているので大幅な変更は難しいと思います。可能な部分を外部に委託して会員の負担を減らすことが必要だと思います。
- ・ 座って話ができるスペースが多い方がいいかも。
- ・ 企画委員や実行委員等の運営に関わる人の大会参加費をいくらかでも安くしてあげてほしい。
- ・ 参加料金の値上げと、運営担当者への謝金支払いによる活性化。
- ・ 締め切りを遅らせること、重複発表制限を適切に緩和すること。
- ・ 法人化し、地区会の意義がわかりにくくなっています。その整理が必要と感ずます。例えば極端な例ですが、地区会を日本語、全国大会を英語とする等、役割の明確化が必要ではないでしょうか。
- ・ 誰のための学会ですか？外国人？学生？会員？そこをはっきりさせれば何をすべきか自ずと見えてきます
- ・ ボランティア頼みでは無く、多少費用がかかっても、専門業者を多用するべきかと思います。大会参加費は上げざるを得なくなるのですが、高度専門職である教員や研究者を、一般事務作業に没頭させることの社会的損失も考えるべきです。
- ・ 高校生発表に労力を使いすぎているように見えます。事前審査などで数を絞って当日の負担を減らしても良いのでは。(個人的には廃止されても構わない。)
- ・ 大会企画として色々なことをやり過ぎていると思う。発表種別をの簡素化するなど、大会をスマート化させるべき。大会スケジュールが圧迫されるならば、自由集会の採否を厳しくしてもよい。
- ・ 大会開催地を、地区持ち回りにするのではなく、大会開催条件を網羅し、かつ最もよい条件で借りることができる施設がある都市に、固定してほしい
- ・ 参加者を増やすため、大会開催地を交通至便な東京・名古屋・大阪近郊にする。
- ・ 現状でよいが、大会運営のノウハウが継続できるようにするとよい。会場を数か所に固定すれば、予算の目処も立てやすいのではないかな？
- ・ 公開講演をweb配信してほしい。
- ・ 学会参加費を公費で支払っている研究者には、割り増しで参加費を払ってもら
- ・ 当日の配布資料を必要最小限にする。
- ・ 一般の会員にとっては、大会が一番のメリットだと思います。雑誌に投稿する会員は何%くらいいるのでしょうか？また、学会誌はだんだんフリーアクセスへの圧力が高まってきます。そういうことを考えると、大会は基本的に黒字を基本とする計画にして、学会費を安くするほうがいいのではないのでしょうか？
- ・ 高校生に参加させるのは大変刺激になる。
- ・ プログラムの冊子体の郵送は不要(特に大会不参加の会員に対して)。
- ・ 大会休憩室のお菓子等を廃止。

- ・ 手伝った学生をキャリア記入できるようにしたいですね
- ・ 過去にブース出展させていただいたが、部屋の立地や開店日数の面で出展者としての旨みが少なく、やめてしまった。費用の名前は協賛金となっているが、協賛寄付ではなく、営業の場所代のためで申し込んでいる。出展者・主催者がwin-winの関係になれる設定だとありがたい。
- ・ シンポジウムのコーディネータは不要だと思います。
- ・ 大会参加費あるいは、学会費を上げて良いので、大会に関するスペシャリストを一人か二人雇用したり、あるいは、学生・院生にきっちりお金を払って仕事をしてもらったり、とにかく開催地が疲弊しない仕組みを作ってもらえればと思います。
- ・ 大会を、生態学の関連分野に携わる再教育の場としても活用できるようになると、参加者数や協賛企業も増えると思います。しかし、年度末3月の開催では、参加しようにもできません。
- ・ 総花的な大会運営に限界があるのであれば、日本国内の生態学関係者が直接集う最大の機会と言う特徴に特化した大会運営でも構わないと考える。ポスター発表等はネット掲示(コメント欄付き)にして、大会参加者以外にも広く閲覧してもらっても良いと考える。
- ・ 生態学会にふさわしいかどうかは難しいが、物理学会のように分科会形式にするという手もあるかもしれない。
- ・ 国際化(英語化)は日本語を母国語としない参加者の増加による、コミュニケーションの必然性によってなされるべきと思う。日本人間で無理に英語でコミュニケーションをとるのには違和感を感じる。国内の年次会における外国人参加者を増やすのには限界があるので、年次会だけではなく中国・韓国との東アジアレベルのコミュニティー(EAFES)を日本生態学会員が盛り上げて行くことも一つの方策かと思う。特に発展する中国と組まない手はないのではないか。
- ・ 日本人ですが、英語名でエントリーしましたところ、名簿から見つけにくくなってしまいました。全員アルファベット順にすると改善されるかも知れません。よろしくご検討ください。

※その他の意見としては、人数が多すぎる、日程が長い、時期が長いなど事前の回答との重複が多い。

